



# 日野学園だより

26

品川区立小中一貫校 日野学園

平成20年6月2日

校長 青木 経

ホームページアドレス <http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

## つばくろはまぶしき鳥となりけり (中村草田男)

つばくろ…ツバメ

校長 青木

おさむ  
経



私が乗り降りする駅には例年ツバメが飛来し巣作りをおこないます。今年は例年より早く新しい巣を作りましたが、巣が小さいために一羽が巣の中で卵を抱き、つがいのもう一羽は近くのパイプの上で休んでいます。早朝私が乗車する頃、すでに2羽とも駅の周辺をせわしく飛び交っており、あの小さな体のどこにあれほどのパワーが潜んでいるのか感嘆します。毎日の風景の中で、子育てをするつがいのツバメを見るたびに、

卵から雛がかえり無事に育つことを祈らずにはられません。

さて、5月から9年生の修学旅行を始め、各学年の課外活動が目白押しでした。私も行事が重ならない限りすべての学年行事に参加するつもりですが、6月4日からは6年生と7年生の合同移動教室が、6月23日からは特別支援学級の移動教室が実施されます。これらの活動は一貫教育を推進する日野学園として系統的な活動であることが重要です。また、品川独自の教科である市民科としての目標設定することも同時に必要とされます。開講3年目の日野学園としては、各学年が試行錯誤しながら実施している学年行事を大きく3つのブロックに分けそれぞれのブロックごとの目標設定と9年間を見通したプログラムの開発に努めています。子どもたちの社会性の育成を図る上で、また、本校の2つの柱の一つである「より良い人間関係の育成」を図るためにも、各行事を通して子どもたちがコミュニケーションを活発におこないお互いを理解し合い、認め合う環境ができることが望ましいと思います。

小学校PTA連合会の平成20年度の活動テーマは「コミュニケーションを深めよう(伝えるということ)」です。子ども同士のコミュニケーションは学校の教育活動で図っていくことができますが、それ以上に大切なのはやはり家庭における保護者とのコミュニケーションであることは疑いありません。携帯電話に代表されるように、情報伝達手段は格段に便利になりましたが、それに付随して様々な問題が発生しており子どもたちも犯罪に巻き込まれているのも事実です。先日チェーンメールの問題が本校でも発見され、保護者の通報で素早い対応ができました。子どもたちを守り育てることは、私たち大人の義務でもありますが、同時に子どもたち自身にも「自分の身を自分で守る術」を身につけさせることも必要です。

学校では4月のセーフティー教室を実施したのを踏まえ、5月27日(火)には1年生が「子ども110番」にご協力いただいている所へ班ごとに挨拶巡りをしました。危険を察知したとき、とっさの判断で助けを呼ぶことはなかなかできないことかも知れませんが、地域の方々からも守られているという安心感は何事にも変えられない貴重な財産であると思います。そしてなによりも普段から家庭で、保護者と子どもたちがいざというときの対応について十分にコミュニケーションがとれていることが大切です。

6月1日から改正道路交通法が実施されました。これによって、自転車に関する規則も改められ「13歳未満と70歳以上には歩道通行が認められたほか、13歳未満はヘルメット着用も保護者の努力義務」になりました。また、「携帯電話で話をしたり、メールをしたりしながら運転すること」を禁止事項としています。

法律上規則は守らなければいけませんが、それ以上に子どもたちの安全を確保するために学校と保護者・地域の連携活動がますます必要とされていることをご理解いただきたいと思います。

いよいよガソリン価格も1リットルが170円台の時代がやってきました。1リットル98円の頃から考えると、ずいぶんと高くなったと感じます。昨日このニュースと一緒に見ていた我が娘が、ボソッと「高いね！」と漏らしました。娘は運転免許も持っていませんし、ましてやガソリンスタンドでガソリン代を支払ったことありません。そんな彼女に「高い」といわせた根拠は何なのか。私は、とても不思議に思いました。

私の古い友人に、決して素行は感心できない振る舞いをする男がおりました。彼の下宿に遊びに行ったときのことで、私が飲み終わったジュースの缶を何気なく部屋の隅に置いてあるゴミ箱にポイッと投げ入れたとき、突然彼は大きな声を出して私にくっついてかかったのです。「缶は燃えないゴミだろ!!そこは燃えるゴミって書いてあるでしょ!!!」と。「彼がゴミの弁別に意見する?」いつもの彼の行動からは想像すらできなかった現実とのギャップに驚いたものです。あまりの剣幕に、今でもその時の様子は伝説のようにその場を共有した友人たちに語り継がれています。

今は人々の多様な価値観が入り乱れている時代です。服装、髪の色、持ち物、髪型等、その価値観は人それぞれです。170円を高いと言った娘は、1万円もする洋服を惜しげもなく買ってきます。人の価値観の違いは見た目ではわからないものですね。

しかし、時代や個々とは関係なく不動の価値観も社会には存在します。挨拶、礼儀作法、食事のマナー、言葉遣い等、長い年月を経て作られてきたものです。文化と言い換えてもよいかもしれませんが、こういった文化は、私たち大人が後生に継承していかなければなりません。子どもたちは深くは考えずに、見た目で判断し価値付け、そして行動します。そういった意味でも大人の役割は価値観の多様化と共に重要になってくるのだと思います。

2ヶ月にわたって大人の役割について書かせていただきました。

私「170円は高いかね?」

娘「高いよ。だって、缶ジュースよりも高いんだよ!!」

私「……」 価値観って難しい……。



## 異学年との交流を通して

## 1～4ブロック 橋本 真弓

1年生98名、2年生113名、3年生103名、4年生53名と1～4ブロックは367名日野学園生のおよそ4割もいます。縦割りの班を編制し、学年の枠を超えて交流できるようにしたのが縦割り班活動です。月に1回、ブロック朝会の時間を使って、集会やグループ活動を行います。

5月16日(金)縦割り班発足式を行いました。1年生にとっては、初めてのことで自分の班を覚えることも簡単ではありません。しかし、どの班も、副班長を務める4年生が教室前まで迎えに行き、無事に班のところへ集まることができました。2年生はと言えば、さすが1年間の成長があります。1年生を前に入れてあげるお兄さん、お姉さんの姿が見られました。3年生は、どうでしょう。リーダーを務める4年生に協力しようと懸命に動きます。そして、4年生は班長・副班長が協力し合って、ゲームの見本を見せたり、自己紹介の進行をしたりしていました。

何事も初めから完璧、というわけにはいきませんが、こうした活動を重ねる中で人と関わることの楽しさや集団生活の醍醐味を味わわせたいと思っています。また、上学年には、リーダーシップを発揮して下学年を慈しみ、下学年には上学年を慕うと、よき人間関係と規律ある態度を育てていきたいと思っています。

6月の運動会は、さらに上級生と関わる機会になります。1～4年生にとっても意義ある一日にしたいです。



初めて運動会主任を務めた時には、日野中学校の中学1年～3年での実施でした。

翌年には、第二日野小学校がゲスト参加。

さらに翌年は、もっと一貫に近い形を目指そうと、より深い交流を意識した第二日野小学校と日野中合同の運動会。

そしていよいよ一貫校開校。公立学校としては日本で初めての小中一貫運動会でした。

昨年の第2回日野学園運動会では、観覧方法や競技時間などを再考して実施しました。

今年の運動会では、午前中は全校児童生徒が参加。午後は5～9年の高学年のみで実施。

こうして振り返ってみると、始めて主任を務めて以来、一度として同じ運動会をおこなっていないなあ、としみじみと考えてしまいました。様々な変化をしていく中で、よい点もあれば改善点もあり。それでも諦めずに前進してまいりました。



今年は、一貫校としての内容を残しつつも、午後は高学年のみとすることで時間的余裕を生み出し、新たな特色を打ち出しました。

ひとつは、学年種目を2種目に増やしたこと。

これにより、色分けの関係で学級をバラバラにせざるを得ない学年も、2種目の内のひとつは学級対抗の形をとることができ、クラスの誇りをかけた戦いが繰り広げられます。

そして、児童生徒会が全校にアンケートを実施し、これまでは徒競走・長距離走・障害物走の3種目から選択していた選択種目が、新たに児童生徒会新設種目を加えた4種目の中から選択出場できるようになりました。

また、交流委員会(児童生徒会が設立に向けて奔走!)の設立に伴い、低学年と高学年が一緒に楽しむ「交流委員会種目」が加わりました。もちろん、日野中時代から続いている、6組児童生徒と一緒に楽しむ、「児童生徒会種目」も健在です。



修学旅行、移動教室、職場体験と大きな行事が目白押しの中、児童生徒会と応援団を中心に、第3回運動会の大成功を目指して、児童生徒も走り始めました！

今年も、児童生徒の熱い戦いをお見逃しなく！！

